

<今回>278回目 2020年7月27日(月)15時~18時 603号室

読書は10冊目「失われた九州王朝」再読 p170 七支刀をめぐる より

<前回>277回目(20-7-6) 出席者 8名

資料(20-07-06-1)前回のまとめ(清水)

ー2)日本書紀原文出だし部分(高山)

A 報告 新型コロナウイルスの影響から再開して2回目。今回も8人の出席を得て、継続のところが終わった。

会報158号が送られたところであるが、冒頭記事、札幌市の川端俊一郎の「定居元年上宮厩戸写」の真偽を読んで巻末2行の書き込みは偽造だという中国人教授の説を展開している。高山氏は最後の日本の本の文字が**本**となっている。これに着目して資料を提出した経緯を説明した。敦煌出土の維摩経義疎で、非海彼本とある法隆寺の法華義疎を例に出している。私は以前、杉本博士が阿倍仲麻呂伝を書いた資料に勝鬘経にも非海彼本と書いていることを紹介したから三経経義疎全てに非海彼本をあることになると感じた。多利思北弧が3つの經典法華経、勝鬘経、維摩経の義疎(要約版)を作って普及版を作成したのではないか。

B資料ー2)多元会報の日本の本の字が**本(もと)**から昔から本であることを紹介した。それをヒノモトでなくヤマトと仮名振りしている。写真版は松本清張の「古代史を論ずる」の本の表紙に使われていたものをコピーしてこられた。仮名振りが単純には読めない。平安の博士たちの悪戦苦闘ぶりがうかがわれる。

C 読書 朝日文庫本のp161邪馬壹国名はいつから成立

1) 壹与の朝貢は泰始2年(266年)。魏、蜀は265年に滅亡した、呉は280年まで存続しただから晋朝のとき朝貢したことになる。後漢書の范曄の場合は邪馬**臺**国は執筆時点の5世紀の名称となる。3世紀の時、邪馬臺国かどうかは解らない。臺はトという音はないが臺にはキという音はあったらしい。

2) **壹**の文字は2回使用されている。①正始4年(243年)ー掖邪狗等率善中郎将の印綬を**壹**拜す。②正始8年頃卑弥呼以て死す後に復卑弥呼の宗女**壹**与年13なるを立てて王と為し、國中遂に定まる。邪馬壹国と壹与はともに固有名詞。国名と女王名の壹は緊密に呼応している。邪馬**壹**国=邪馬**倭**国。壹与は倭与となる。

3) 壹与朝貢の時期 一番最後の、壹与貢獻記事だけ年月は記されていない。知らなかったはずはない。三國志に書かれていないのは、次の晋朝の時の出来事だから、晋書に年月記事を譲ったのは当然だ。

4) 本来晋書に記載されるべき壹与の貢獻記事が年月表記なしに魏の末に続く記事として書かれたのは中国の天子の正統性を誇るためである。後漢一魏一晋の正統性、晋書には重訳朝貢と書き、日本書紀には晋の起居注と出典を明らかにして泰始2年10月貴倭の女王重訳貢獻と神功紀に記す。

5) 魏志の最末が壹与の大貢獻で結ばれている。女王は壹与、倭を転じた壹を天子に二心ない意味の壹を採用し、実際には壹=倭で倭の五王につながる夷蛮の王の一字名称化の先駆をなすものである。

6) 陳寿執筆時の倭王は女王か男王か 上田正昭らは男王としているが、其の国本亦男子を以て王と為しの亦の文字の解釈で男王としている事に反論、中国には男王しかいなかったことで女王に決まっているという。

次回日程 20-8-14(金) 15時から18時 602号室

ー8-24(月) 15時から18時 602号室

ー9-11(金) 15時から18時 601号室

ー9-25(金) 15時から18時 601号室